

令和4年度全国学力・学習状況調査 市川市の結果について

市川市教育委員会
学校教育部指導課
令和4年12月1日

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への**教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。**

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国、算・数、理〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(3) 調査を実施した学校・児童生徒数（調査日：令和4年4月19日）

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	39校※ ¹	39校（100%）	3,352人
中学校	16校※ ²	16校（100%）	2,911人

※塩浜学園（前期課程・後期課程）を含む

(4) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕の結果について

小学校6年生 平均正答率（%）				中学校3年生 平均正答率（%）			
小学校	市川市	千葉県	全国	中学校	市川市	千葉県	全国
国語	67	66	65.6	国語	68	68	69.0
算数	65	63	63.2	数学	52	50	51.4
理科	64	63	63.3	理科	48	48	49.3

※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、千葉県及び市川市は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

(5) 児童生徒質問紙調査の主な結果について

① 小学校の結果

毎日朝食を食べていますか
(95%)

人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(95%)

肯定的な回答が多かった主な項目 全国平均と同等またはそれ以上

いじめは、どんな理由があってもいけないこと
だと思いますか (96%)

将来の夢や目標を持っていますか
(81%)

自然の中で遊ぶことや自然観察をすることが
ありますか(61%)

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦してい
ますか(69%)

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い主な項目

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から
取り組んでいましたか(73%)

学級での話し合いを生かして、自分が努力すべ
きことを決めて取り組んでいますか(68%)

② 中学校の結果

人が困っているときは、進んで助けていますか
(88%)

学校に行くのは楽しいと思いますか
(83%)

肯定的な回答が多かった主な項目 全国平均と同等またはそれ以上

いじめは、どんな理由があってもいけないこと
だと思いますか(95%)

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使
い方について、家の人と約束したことを守って
いますか(71%)

自分と違う意見について考えるのは楽しいと
思いますか (74%)

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦してい
ますか(63%)

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い主な項目

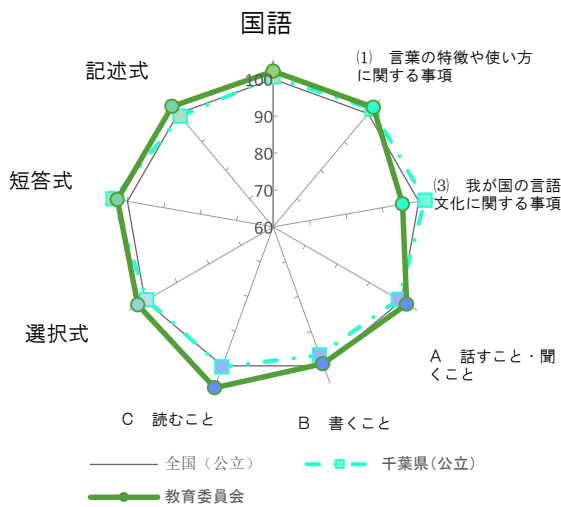
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から
取り組んでいましたか(72%)

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
(52%)

(6) 国語の主な結果について

① 小学校の結果

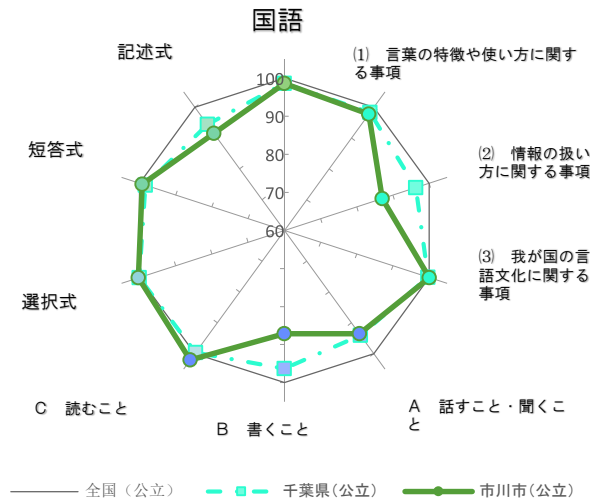
領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」や「書くこと」の問題は、全国平均を若干下回り課題があります。

② 中学校の結果

領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と下回る結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「情報の取扱い方に関する事項」の領域では、全国平均を下回り、課題があります。
- ・「短答式」や「記述式」の問題も、全国平均を下回り、課題があります。

③ 課題改善のポイント

「書く力」を高めるために、「言葉による見方・考え方」を働かせた(構成の観点に着目した)構想を考えること。

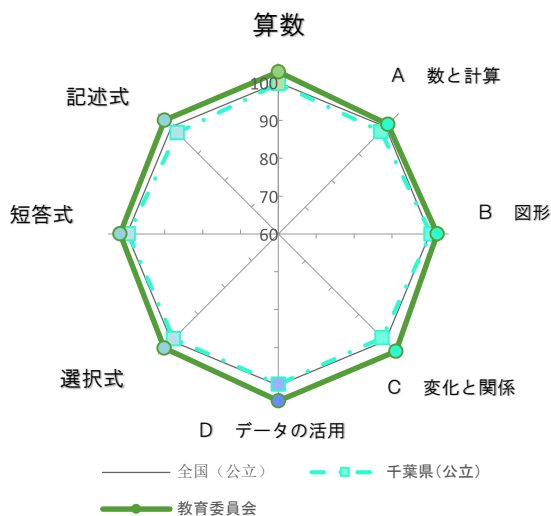
構成の観点として、「伝えたいことを明確にする、段落ごとの内容を考える、『考えと理由や事例』のつながりや配列を考える、読み手を引き付ける書き出しを考える、読み手が理解しやすいまとめを書く」ことが重要です。

そのため、「①何をどのように書くか、課題を明確にする②文章全体の構成に着目して文章を整える③感想や意見を伝え合い、よいところを見つける④どんな力が身に付いたかをメタ認知する」よう、授業を構成したり、日々の生活で文章を書いたりすることで、「書く力」が高まっていきます。

(7) 算数・数学の主な結果について

① 小学校の結果

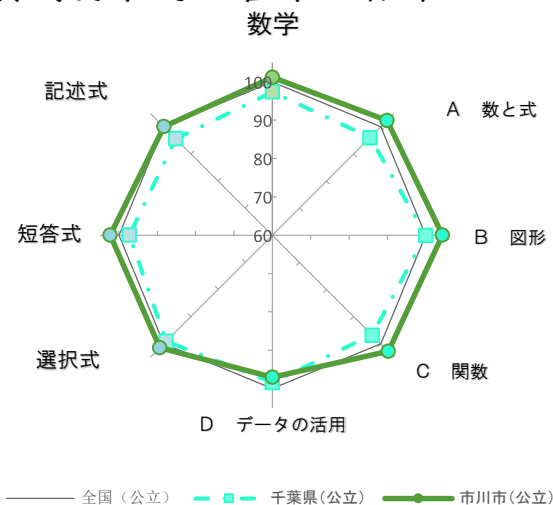
領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・すべての領域「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」で、全国平均を上回りました。
- ・特に、「データの活用」に関する問題では、全国平均を大きく上回りました。

② 中学校の結果

領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「数と式」、「図形」「関数」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「データの活用」領域は全国平均を若干下回り、課題があります。

③ 課題改善のポイント

「データの活用」領域の力を高めるため、データの傾向を読み取り、批判的に考察する場面を設定すること。

「データの活用」領域の力を高めるために、データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する力を高めることが大切です。そのため、データを的確に捉え、判断する場面を、次のように設定します。

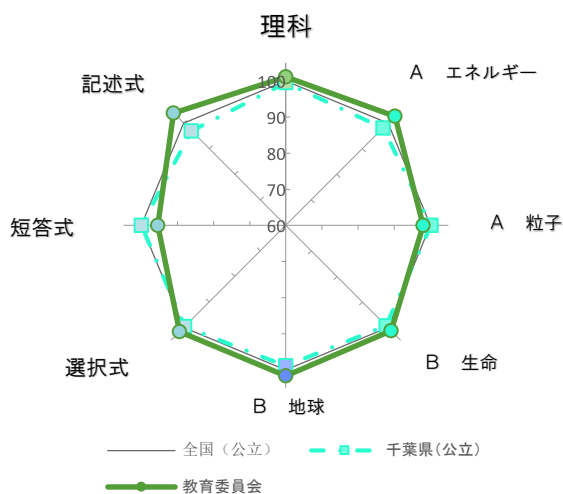
- ① 度数が高い階級、最大値や最小値、範囲など、データを読み取る
- ② グラフ等を比較し、データの傾向を見つける
- ③ 代表値やちらばりをもとに、自分の考えの根拠を明確にして相手に伝える
- ④ 他のデータでも比較して判断する場面を考える

データを基に自分の考えを持ち、お互いの考えを説明し合うことで、「データの活用」領域の力が高まっていきます。

(8) 理科の主な結果について

① 小学校の結果

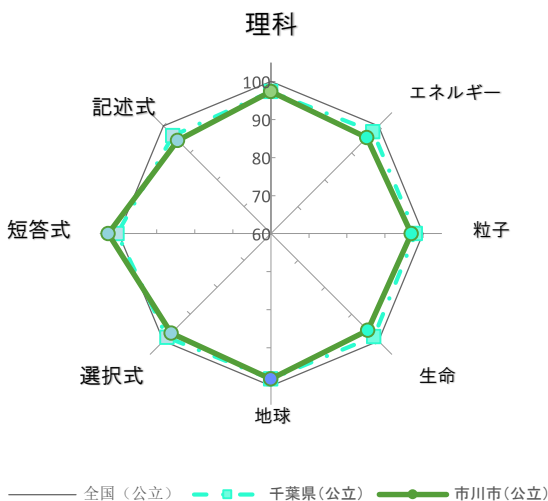
領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「エネルギー」、「生命」、「地球」の領域で、全国平均を上回りました。
- ・「粒子」領域や「短答式」の問題は全国平均を若干下回り、課題があります。

② 中学校の結果

領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を下回る結果となりました。
- ・全ての領域「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域で、全国平均を下回り、課題があります。
- ・「記述式」や「選択式」の問題も、全国平均を下回り、課題があります。

③ 課題改善のポイント

理科の学力を高めるため、知識や技能を活用する場面や、科学的な事象に対し、多面的に考える機会を設定する。

指導計画の中に、学習で得た知識や技能、見方や考え方を活用する場面を設定することで、学んだことへの理解が促進されます。

また、問題を解決したり確かめたりするための、実験方法を計画立案・実行させるなど、科学的な見方・考え方が身に付くよう、意図的に児童生徒が考える機会を増やすことが課題改善のポイントです。具体的には、「どのような実験器具が必要で、どこまで測定する必要があるのか」や、「これらの理由はなぜか」等、日々の授業で考える機会を設定することで、理科の学力が高まっていきます。

(9)「生活習慣」と「教科に関する調査」との相関について

次のような生活習慣の児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向がありました。

朝食を毎日食べている。	毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている。
より良い生活習慣	
家で自分で計画を立てて勉強している。	平日にテレビゲームをする時間が少ない

生活習慣改善のために

生活の中で、子ども達が健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図ることを目的に、「ヘルシースクール」を推進します。

現代の子どもたちは、「食生活の乱れ」「運動不足」による生活習慣病の低年齢化、子どもたちを取り巻く健康問題が山積しています。

市川市においても朝食欠食やスクリーンタイムの増加傾向などの課題が見られます。そこで、平成17年度よりすべての公立幼稚園、小学校・中学校・義務教育学校・特別支援学校で包括的な健康教育である「ヘルシースクール」を推進しています。

ヘルシースクール推進4つの柱

- ①「体力づくり」
- ②「望ましい生活リズムの確立」
- ③「食に関する指導の充実」
- ④「環境衛生の充実」

ヘルシースクールプランの検討、立案

各園、各学校の実態に応じて、「体力づくり」「望ましい生活リズムの確立」「食に関する指導の充実」「環境衛生の充実」の4つの柱について、各園、各学校のヘルシースクール推進委員会で検討し、計画、目標（可能な場合は数値目標）等を設定した「ヘルシースクールプラン」を作成します。また、各園、各学校・家庭、地域が一体となって取り組む「包括的な健康教育」の推進、充実を目指します。

今後も、生活の中で、子ども達が健康について自ら考え行動し、望ましいライフスタイルの確立を図ることを目的に、「ヘルシースクール」を推進します。

(10) 学力向上に向けた主な取組について

市川市教育委員会では、以下の取組を通し、学力向上を推進していきます。

・全国学力・学習状況調査の活用

各学校では、学力向上委員会で結果分析し、その改善策を授業に生かすなど、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習課題の改善・充実を図ります。

・創意と活力のある学校づくり

各学校がその実態や特色を生かし、学校教育三カ年計画を作成し、創意と活力に満ちた取組を行うことにより、児童生徒（幼児）の基礎学力の向上と主体的な活動の推進を図ります。

・訪問指導

各学校の学校教育目標、児童生徒や教職員、教育課程、学習や生活状況、教育環境、授業実践等を踏まえた指導・助言を行い、本市の学校教育活動の質の向上を図ります。

・幼児教育の推進

幼保小の架け橋プログラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）の周知と実践を推進し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ります。

・学校間連携の推進

幼稚園・小中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校等を含めた、学校間における学びの接続及び学校間連携推進の発展的な継続に取り組み、学びの連続性や各学校の教育活動の充実に向けた体制作りを図ります。

・GIGAスクールの推進

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを活用することで、学校現場のICT環境の活用の促進を図り、特別な支援を必要とする子どもを含め多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や学習活動の一層の充実を目指し、児童生徒の資質と能力の育成を図ります。

・校内塾・まなびくらぶ

市立小・中・義務教育学校において、算数科・数学科・外国語教育等を中心とした基礎的・基本的な内容についての学習の場を、放課後及び長期休業中等に設けます。退職教員や教員を志望する大学生など多様な地域人材を「校内塾・まなびくらぶ」の指導者「まなびサポーター」として派遣し、児童生徒の基礎的な学力の定着を図ります。